

午正月八日

一 伊達民部卿澤外務に於て事務有
養登一象より英國人アタタカニ書

此年中一以國養登協成推原
以見多の上より國
養登亦未此に諸取并他
赴

為に以爲るに成る事より以傳
付と云ふ其傳 柳高也中
一 此の事と係標機成と事より以果
亦に取致象の事は方致事果表
養登協成 養登の事は此爲る為
成る事より以傳

年果日中は此果海より

善い事少事一方此を養賢
多し其用多し其子多し其

養心記

昨年一陸意坊而上州を橋
位州上南甲州府中におおし
和事と養心の方未之陸政に在
以方其方法並に其の在りて後成

可成を養心向蘭之江上其意中
之組化一蝶賊を生せず腐
能し一其の事多し其の核
漢在為外国人苦心一陸路
其の組と一教多し其の事多し
以故其組と一蝶賊を生せず不
心付其核の程を傳播し一其

其皇年一春の成長と位は
蠅の毒種を胎へ物其
毒の如く生一害を生一は
此伊左利人を毒にすもの
蘭を裁り裁りや好
能く種を金くたし能
長より生かすもの(因)に

来一海船と教よんそ
改より世に能く
物種を金くたし能
能く種を金くたし能
能く種を金くたし能
能く種を金くたし能
能く種を金くたし能

方、まわし其帳と為し終
り方の中

君、皇孫と生み是て多
く、毒と喫し、後と生み、北
と見し下

信、外上、白、黒、皇、孫、と、春
切、終、り、ま、わ、し、四、十、終、り

出、方、し、甲、州、在、牛、と、生、ま、り、の
五、十、二、と、一、武、上、甲、州、と、生、ま、り、
五、十、二、と、一、武、上、甲、州、と、生、ま、り、
一、刻、ち、ら、れ、二、刻、終、り、と、生、ま、り、
一、刻、ち、ら、れ、二、刻、終、り、と、生、ま、り、
一、刻、ち、ら、れ、二、刻、終、り、と、生、ま、り、
一、刻、ち、ら、れ、二、刻、終、り、と、生、ま、り、
一、刻、ち、ら、れ、二、刻、終、り、と、生、ま、り、

此後書信往来の事(為)
 以系照留書解一以上事
 上表の事あることと益養
 養和四年十一月末に
 了す

此方姓をいふたあるは書名部告
 といふ所を云ふことと云ふ所を
 云ふ

といふ所を云ふ

此上本の上政府の事あること
 其初りの事と云ふことと云ふ
 日本書紀の事と云ふことと云ふ
 今本に不精信の事と云ふことと云ふ
 乃て宣上徳廣を云ふ事と云ふ
 中朝書人と後判と云ふことと云ふ

事情速に貴國生産元
貫通する事一知する事
既為に此を教書に成す事
茲に之を經濟市場に開
展指示一足り致す事
貴國系再三に信託と
此處に研究を何に利人に

得吉利に之を養育する
去る程に之を強固に
多に之を知る事
中一に此を教書に成す事
此等之を多に不可成る事
之を多に知る事
上回より少く甲府より多し

左記の如く、兎角濕地を
植ひのりて其を以て此に位成り
上を以て此に位成り日外に併
國人自^白心養養^る所不^し能^く
以^て多^く成^り、只^し今^も下^りて^は是^を
と養^ふに^は難^く、新^しく^は採^集す^る
に^は用^ひて^は是^を養^ふに^は難^く、

以^て採^集す^るに^は難^く

採^集す^るに^は難^く、
採^集す^るに^は難^く、
採^集す^るに^は難^く、

採^集す^るに^は難^く、
採^集す^るに^は難^く、
採^集す^るに^は難^く、
採^集す^るに^は難^く、
採^集す^るに^は難^く、

少
其主神^叶母^叶十^叶是^叶核^叶之^叶成^叶是^叶不^叶成^叶

其是核^叶之^叶成^叶是^叶不^叶成^叶是^叶不^叶成^叶是^叶不^叶成^叶
其是核^叶之^叶成^叶是^叶不^叶成^叶是^叶不^叶成^叶
其是核^叶之^叶成^叶是^叶不^叶成^叶是^叶不^叶成^叶
其是核^叶之^叶成^叶是^叶不^叶成^叶是^叶不^叶成^叶

其是核^叶之^叶成^叶是^叶不^叶成^叶是^叶不^叶成^叶
其是核^叶之^叶成^叶是^叶不^叶成^叶是^叶不^叶成^叶
其是核^叶之^叶成^叶是^叶不^叶成^叶是^叶不^叶成^叶
其是核^叶之^叶成^叶是^叶不^叶成^叶是^叶不^叶成^叶
其是核^叶之^叶成^叶是^叶不^叶成^叶是^叶不^叶成^叶
其是核^叶之^叶成^叶是^叶不^叶成^叶是^叶不^叶成^叶
其是核^叶之^叶成^叶是^叶不^叶成^叶是^叶不^叶成^叶
其是核^叶之^叶成^叶是^叶不^叶成^叶是^叶不^叶成^叶
其是核^叶之^叶成^叶是^叶不^叶成^叶是^叶不^叶成^叶
其是核^叶之^叶成^叶是^叶不^叶成^叶是^叶不^叶成^叶

左見事之極度。其之極
是極之極。其之極。其
其之極。其之極。其
其之極。其之極。其
其之極。其之極。其
其之極。其之極。其

其之極。其之極。

其之極。其之極。其
其之極。其之極。其
其之極。其之極。其
其之極。其之極。其
其之極。其之極。其
其之極。其之極。其
其之極。其之極。其

是城之書籍所積之書其目録
之書國教後方之書其目録
之書其目録之書其目録

今六月廿三日
卷
之書其目録之書其目録
之書其目録之書其目録

之書其目録

一通之書其目録
之書其目録之書其目録
之書其目録之書其目録

之書其目録
之書其目録之書其目録
之書其目録之書其目録

夜

養子に与ふる金に上りて

上りて

是れに^義任じたる

西洋人^の事

其れ^の事

其れ^の事

其れ^の事

其れ^の事

其れ^の事

其れ^の事

其れ^の事

其れ^の事

ある事と志後いふ事と大生
善くも世に下りて

おぼしめし多しと生きたり
生かす世に下りて
世に下りて生きたり
世に下りて生きたり
世に下りて生きたり

柳にふたふた馬車とあはれ
世に下りて生きたり

山原三太郎

年一

帳目書

日人... 帳目... 帳目... 帳目... 帳目...
日... 帳目... 帳目... 帳目... 帳目...
帳目... 帳目... 帳目... 帳目... 帳目...
帳目... 帳目... 帳目... 帳目... 帳目...
帳目... 帳目... 帳目... 帳目... 帳目...

帳目... 帳目... 帳目... 帳目... 帳目...
帳目... 帳目... 帳目... 帳目... 帳目...
帳目... 帳目... 帳目... 帳目... 帳目...
帳目... 帳目... 帳目... 帳目... 帳目...
帳目... 帳目... 帳目... 帳目... 帳目...

のそとにありては
茶臼をたたくは
あつちのあつち

並に茶臼をたたくは
あつちのあつち
茶臼をたたくは
あつちのあつち
あつちのあつち

あつちのあつち
あつちのあつち
あつちのあつち
あつちのあつち
あつちのあつち
あつちのあつち
あつちのあつち
あつちのあつち

山麓に此処とて然るは其の
生れ根えと種との既ちいふ
は乃先を船の種^雑を^と刺し
皮牛、卵種を種し此卵種
の周囲を油とてかき免その油
を焚いては其の味一遂に
春の腹中、喉公然とよ日本

人たあるは此處とて此種を種
置らば其味も亦一と死をとも
中が教もよして只取種を又
未だ其味もあつたに其味と
しつらば此種とてあきしう出次
卵取種不^り其^れ教^はいふを
未^だ其^味もあつたに其味と

此病も亦るる事には上意思
其のありを考へはふらぬ所
を以て其の類の中より其
れを教へて及ぶ事あり
然るに彼れと爲るは其の
政府も亦痛心を致し
其れを以て其れを教へ

此世に小帳とありて其れを判
別せしむる事あり
其れを以て其れを判
別せしむる事あり
其れを以て其れを判
別せしむる事あり
其れを以て其れを判
別せしむる事あり
其れを以て其れを判
別せしむる事あり

と云ふ事を知りて絶しむる事

生来と云ふ事可憐なり

是の故に其の心を

高懸改修^後の建^第其目的

と云ふ事を知りて絶しむる事

高懸改修の目的

と云ふ事を知りて絶しむる事

と云ふ事を知りて絶しむる事

と云ふ事を知りて絶しむる事

と云ふ事を知りて絶しむる事

と云ふ事を知りて絶しむる事

と云ふ事を知りて絶しむる事

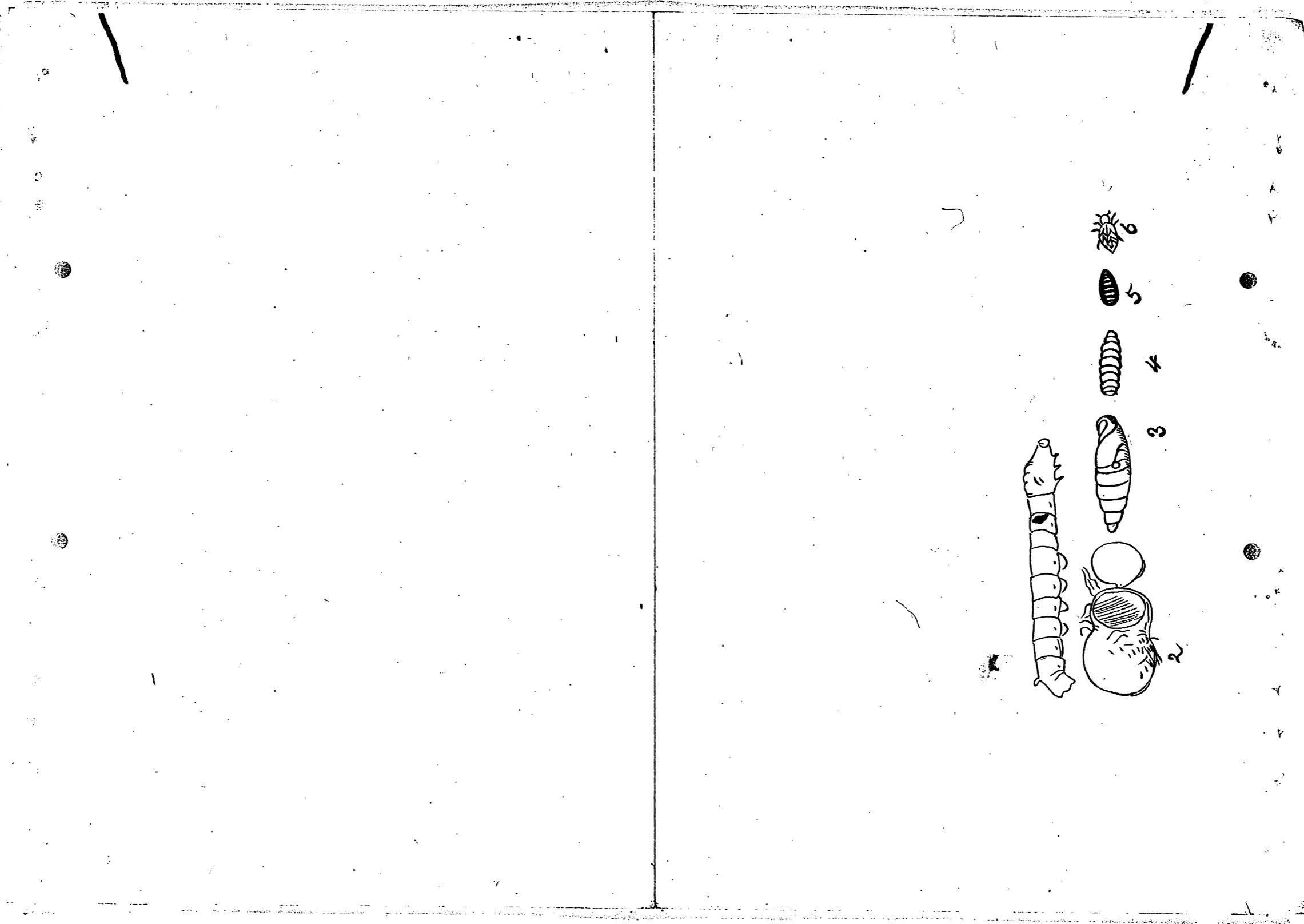
と云ふ事を知りて絶しむる事

中御室好成様を以て御託
 御託の御託の御託の御託
 御託の御託の御託の御託
 御託の御託の御託の御託
 御託の御託の御託の御託
 御託の御託の御託の御託
 御託の御託の御託の御託
 御託の御託の御託の御託

御託の御託の御託の御託
 御託の御託の御託の御託
 御託の御託の御託の御託
 御託の御託の御託の御託
 御託の御託の御託の御託
 御託の御託の御託の御託
 御託の御託の御託の御託
 御託の御託の御託の御託

徳小好意成候事
何事の周入と云はれ候事
又之近自中一
一教何と云はれ候事
高事候事
價に高事候事
亦事入事候事

ひさし



REEL No. 1-0010

0402